

# 新潟県 公民館月報

昭和61年12月号

発行所 新潟県公民館連合会

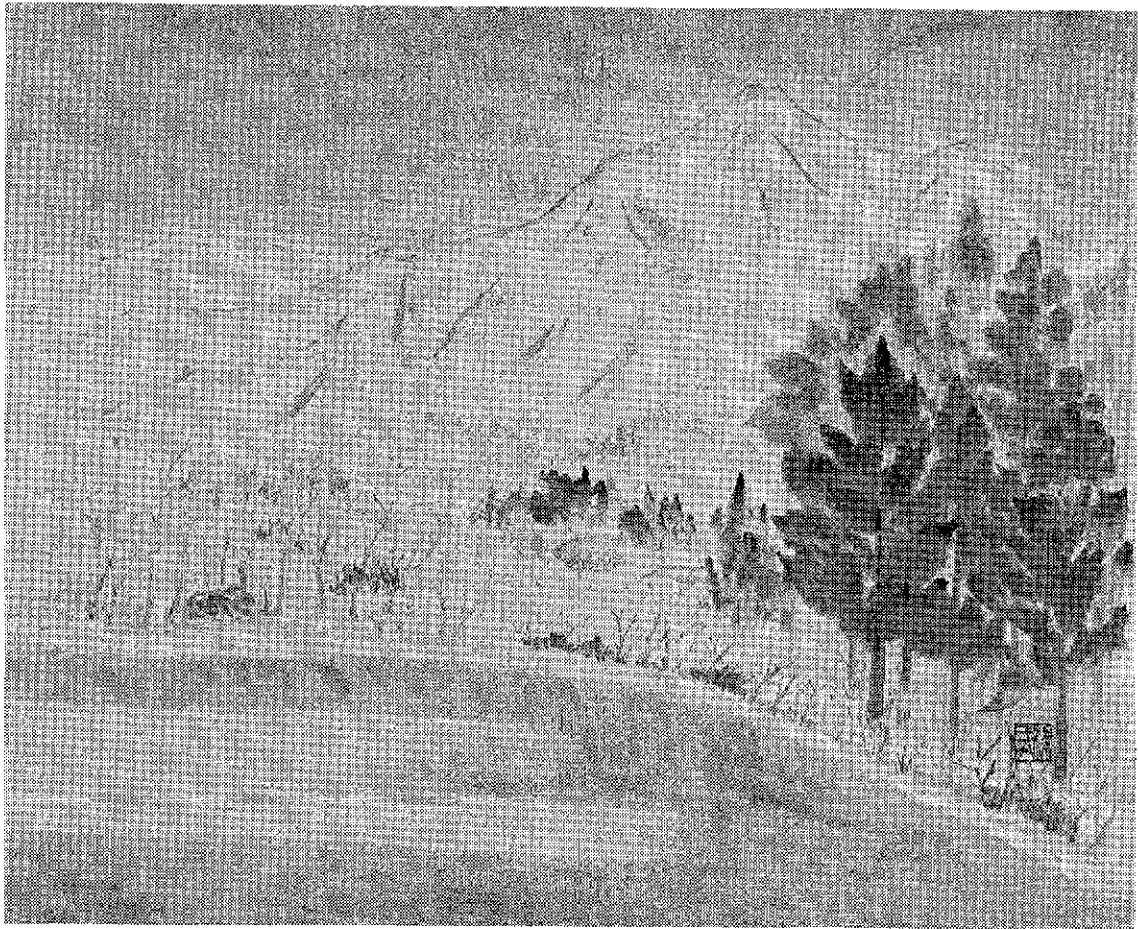
【新潟市川端町2-9・県林業会館内】

【電話・新潟(025)224-6073】(振替新潟0-4049)

発行人 会長 志水 亘

編集人 事務局長 上村 隆二郎

【定価1部 120円 年刊 1,440円】



## 朝日池に映える米山

朝日池に、今年も幾組かの白鳥が姿を見せていると聞いてから間もなく、思いがけない早雪に見舞われて、十二月の中旬の晴れた一日、朝日池の畔に足を運ぶ。地面は大平雪におおわれて、白鳥の姿は見る事ができなかった。

大潟町は、湖沼の多い自然環境に恵まれてはいるが、白鳥が優雅な姿を見せてくれるのは、この朝日池だけのようだ。湖面を背に、冬の陽ざしに輝く米山は、毎日眺めて暮らす山とも思えぬ雄大さ。越後富士の愛称も領ける美しさに、スケッチの手を休めて見とれる。

湖面をおおう雪の下に眠る「じゅんさい」や「蓮」は、季節とともに湖面いっばいに緑が広がり、「じゅんさい」は六月から八月まで新芽が摘み採られて、大潟町の特産食品として出まわる。八月には「蓮」の開花が見事である。池畔に釣竿を垂れる釣人とともに、一幅の風物詩である。今はすべて冬眠の静けさ、春の息吹きが待ち遠しく感じられる。

(絵と文 大潟町潟町三区 久保田誠二)

〔本年三月末に寄稿されたものです。編集子〕

# 公民館総合補償制度

公民館の実態に応じ、加入の種類は自由です。中途加入受付中!

第二回評議員会開催

昭和60年度決算の承認等

情報交換はバズセッションで

(バズセッションのスナップ)



十一月十九日、新潟市の平安閣において、本年度第二回評議員会が開催された。

昭和六十年度歳入歳出決算の承認案件をはじめ、本会の上半期会務の中間報告、ならびに関東甲信越静ブロック公連・全国公民館連合会の事業等の報告や紹介などが盛りたくさんの審議がなされた。

なお、審議事項終了後、会長自から司会となって、県公連の当面の問題について情報交換・意見交換がなされた。

第二回目は「部会の合同会議」となり、前回の部会報告があったのも協議がすすめられた。

職員

社会教育推進の指標の基ともいえる「職員」から口火が切られた。この紙面では、委員から出された疑問や指摘、館長、県教委の答弁は割愛する。

市町村別に公民館専事一人当人口が指標特定項目として数値化された資料として出された。職員は専任、兼任(本務)だけの人数を合計しているために一般行政や社会教育事務を主とするが、公民館専事としても活躍している人や、幹事面では非

続いて、糸魚川市中央公民館長松岡海兵衛氏に選出、議事に承認事項のうちの主要なもの。昭和六十年度歳入歳出決算の承認事項

収入の総額一三、三三三、九四〇円、支出の総額二二、六七〇、二五八円で差引六、六六三、六八五円の剰余は昭和60年度へ繰り越す。代表監事兼市中央公民館長高橋宗氏から「関係諸帳簿を精査したところ正確なものであると認めます。」監事報告が述べられ承認可決された。

第38回県公民館大会について下越公連が共催し、主催は三市中浦公連がうけることになった。なお7月22日(水)午前10時から新津市市民会館を会場として開催した。

市町村数から提出された概算に基いて集計した予算表であるから、数字について疑問を投げかけるのは憤慨も知れないが、人口当りの社会教育活動費を各自治体と比較してみれば格差

すること決定。なお、主題は「生涯学習」と公民館活動の「すずめ方」という大主題が示された程度に止まった。したがって、具体的なテーマ、基調講演等については今後つめることになった。

議事終了後、会長の司会のもとに、バズセッションによる意見交換を行った。県公民館大会への要望や注文など、多くの意見が交わされ活発な協議が展開された。なお提起された主な意見は、①批判票も多かったが賛成票も多い。参加者のよみががった大会は成功とみなすべし。②来年の開催時期7月は大いによし。③お祭りの大会にならないための努力が必要だ。といった貴重な意見であった。

第39回県公民館大会の決算報告では、収入総額一、九三三、六〇〇円(うち七千四百は県補助金)支出総額一、九一七、九七二円差引一四、六八四円の剰余があり、これは、昭和61年度一般会計に繰り入れることと承認された。

反省会では、大会要項決定時に決められたことと厳格力守って欲しいという要望(例参加費の節約)が、開会式・全大連の連絡事項、明年度開催予定の研究集会は、関ブロック連は、甲府市に接近し石和市中九月初旬に、全国大会は、奈良市中十月中旬に開催すること

第39回県公民館大会について、N市の社会教育費総額二億四千六八〇万円、社会教育活動費五千二百六十六万円、人口一人当り活動費は二八八円。これに対して、人口が五万人少ないJ市は、六億七千四百八十七万円、三億一千五百〇二万円、人口一人当り二千四二二円となり、両市の活動費に十倍のひらきが出る。これは現実的に考えにくい数値である。

社会教育関係団体加入案が、各自治体の社会教育振興の指標

会議日誌

(10月17日 曇)

県社会教育委員会

市町村数から提出された概算に基いて集計した予算表であるから、数字について疑問を投げかけるのは憤慨も知れないが、人口当りの社会教育活動費を各自治体と比較してみれば格差

第39回県公民館大会の決算報告では、収入総額一、九三三、六〇〇円(うち七千四百は県補助金)支出総額一、九一七、九七二円差引一四、六八四円の剰余があり、これは、昭和61年度一般会計に繰り入れることと承認された。

反省会では、大会要項決定時に決められたことと厳格力守って欲しいという要望(例参加費の節約)が、開会式・全大連の連絡事項、明年度開催予定の研究集会は、関ブロック連は、甲府市に接近し石和市中九月初旬に、全国大会は、奈良市中十月中旬に開催すること

第39回県公民館大会について、N市の社会教育費総額二億四千六八〇万円、社会教育活動費五千二百六十六万円、人口一人当り活動費は二八八円。これに対して、人口が五万人少ないJ市は、六億七千四百八十七万円、三億一千五百〇二万円、人口一人当り二千四二二円となり、両市の活動費に十倍のひらきが出る。これは現実的に考えにくい数値である。

社会教育関係団体加入案が、各自治体の社会教育振興の指標

第39回県公民館大会の決算報告では、収入総額一、九三三、六〇〇円(うち七千四百は県補助金)支出総額一、九一七、九七二円差引一四、六八四円の剰余があり、これは、昭和61年度一般会計に繰り入れることと承認された。

反省会では、大会要項決定時に決められたことと厳格力守って欲しいという要望(例参加費の節約)が、開会式・全大連の連絡事項、明年度開催予定の研究集会は、関ブロック連は、甲府市に接近し石和市中九月初旬に、全国大会は、奈良市中十月中旬に開催すること

第39回県公民館大会について、N市の社会教育費総額二億四千六八〇万円、社会教育活動費五千二百六十六万円、人口一人当り活動費は二八八円。これに対して、人口が五万人少ないJ市は、六億七千四百八十七万円、三億一千五百〇二万円、人口一人当り二千四二二円となり、両市の活動費に十倍のひらきが出る。これは現実的に考えにくい数値である。

社会教育関係団体加入案が、各自治体の社会教育振興の指標

(会長 志水 真記)

# 第九回全国公民館研究集会

## 生涯学習の推進策を探る

### 沖繩に集う千四百余人

さる十一月六・七日の二日間、わたり沖繩那覇市で第九回全国公民館研究集会が開催された。

不惑の年を迎えた公民館のこの記念すべき年に、戦火の記憶をめぐらぬ沖繩の地で全国公民館研究集会が開催されたのも縁であらうか。

全国から約千四百余人が参加した。本県からは、会長以下4名の参加であった。

大会テーマを「生涯学習を推進する公民館活動のあり方を考える」に引き、十分科会による、それぞれの分科会テーマによって、

白熱した研究討議が展開された。横山正人会長が、開会のあいさつの中で、臨時教育審議会の答申内容にことよせて、つぎのように討議した。

『公民館が、地域住民の教育の機会均等を保障する施設として、成に成るべきでない。ここに「あんな多忙な役職には誰がつくものか」と不評を四つてい

る。採用時で補充を考慮すべきである。』

豊かにならねばならぬ。おもしろい。重むべきは、若者に負けない情熱を燃やす人材を移局長さん。このお二人のコンビは、

金・物・人の三不足は船舶の数、乗船客数に制約が必然となる。最近ひょんなことからミニニエー関係(自治会)地方

認)から助成を受け船舶及び船前面に大小の波浪となつて障害

要は、①海図(公民館の目的)と羅針盤(運用)を十分熟知し

心得て、②船長と船員とが波浪に応じての団結と決断が求められる。③船客に対し「生活目標

に即した長期短期の目標を海図に入れ、④優れた航海士(公民館

の公民館が出現するのは、占領から解放されたからである。日本の公民館の原質は、いま沖繩に残っているという印象を強く持った。



人のコンビは、

金・物・人の三不足は船舶の数、乗船客数に制約が必然となる。最近ひょんなことからミニニエー関係(自治会)地方

認)から助成を受け船舶及び船前面に大小の波浪となつて障害

要は、①海図(公民館の目的)と羅針盤(運用)を十分熟知し

心得て、②船長と船員とが波浪に応じての団結と決断が求められる。③船客に対し「生活目標

に即した長期短期の目標を海図に入れ、④優れた航海士(公民館

の公民館が出現するのは、占領から解放されたからである。日本の公民館の原質は、いま沖繩に残っているという印象を強く持った。

### これからの公民館像を求めて

石澤 邦治

具が整えられ活力を得る。学校の規程の何十倍の労働能力を要する公民館にとって、何が『義務』の二字を社会教育での船口の

の教に及ぼして欲しいものである。幸い有能な社会教育士の手

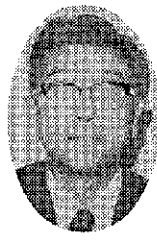
の技術・熱意・努力のお蔭で進行を続けてきている。しかし、交代職員がいなければ、業

健康づくり大助成など、文武

健康づくり大助成など、文武

健康づくり大助成など、文武

健康づくり大助成など、文武



健康づくり大助成など、文武

健康づくり大助成など、文武

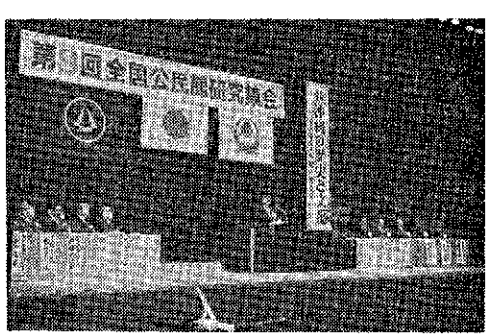
健康づくり大助成など、文武

健康づくり大助成など、文武

健康づくり大助成など、文武

健康づくり大助成など、文武

今後一冊その重きを加えていくべきものと願うので、この際、これまで活動のあり方を反省してみる必要を痛感している。また、ま本年は、文部次官通牒が発せられて40年。全連創設35周年を迎えた年であるので、過去を回顧し、未来のあるべき姿を求めて、いま友情と団結、奉仕と協力、連帯と協働の精神で、公民館の振興充実に向って大いに努力していくことを誓ひあいたい。』と。



変化にタイムリーに動いて先見性のあるプログラム編成が必要であり、対象者のニーズを的確に捉えて主体的な体験で習得されるイベントが望まれる、とまとめられた。二日目の全体会では那覇市出身の法政大教授外間守善氏が「沖繩の歴史と文化」を題して講演された。沖繩の文化は東西南北から入ってきたものに沖繩の精神風土に合わせたパランスの取り方をして沖繩独自の美意識を醸成して作られたものが、沖繩の衣服、陶器、酒、琉歌等を例にとり興味深い話をされたが、特に関心したのが、心持が切々と響いて感動的であった。来年は海邦団体が沖繩を開かれる。いまは海邦の感情を施設の充実と燃命である。那覇の国際道は夜遅くまで賑々と灯がともり、大ぜいの人達が賑わっていた。そこで手にした海産物は、魚、貝、海藻、大らかである。通りの中央部にアーケードのある市場があった。雑多な商品が並べられ、道行く人に賑やかに声をかける。沖繩の人にはくましく明るい。この深いパイタルティは長い沖繩の歴史の中で培われてきたものだろう。明の太陽の国沖繩、しかし悲惨な沖縄戦跡をめぐり、戦後依然として残っている広大な米軍基地を目のあたりにすると沖繩の人々の苦しみや痛みが胸々と伝わってくる。あつた。宋(元)の歴史の上で大敵に向って咆哮するシーサー(獅子)に沖繩の人々の祈りめいたものを感じたのは私だけではない。(新潟市中央公民館長 佐伯)

### 研究集会に参加して

竹下 みい



空から見る沖繩の海は紺青の色。海はエメラルドグリーンに輝き、まるでキラキラ輝き、まるで夢の島に降り立っている思いである。十一月六・七日那覇市に全国公民館大会が開催され、第一日めは各会場にわたっての分科会があり、

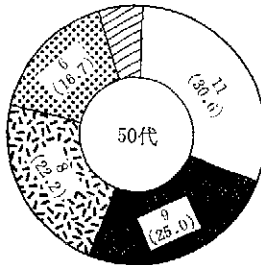
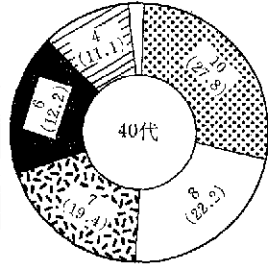
私は第七分科会成人教育に参加した。就労成人(成人男子)を学習に参加させるにはどうしたらよいか、と各地で試みた体験談を通して熱心な研究討議が行われた。地域活動に参加してもらおう。今や企業教育は利益追求だけでなく人間性の商標に重点をおくようになってきた。

企業経営者、労働組合幹部、公民館の三者協同で企業内教育と公民館の台致を見出して積極的に推進しなければ、成人には社会の

# 初任者アンケート

|       |    |     |    |     |     |
|-------|----|-----|----|-----|-----|
| 40~49 |    | 50~ |    | 合計  |     |
| 32    | 36 | 32  | 36 | 174 | 199 |
| 4     |    | 4   |    | 25  |     |

- 1. 土・日や夜間の勤務が多いと聞いていたのではないと思った。
- 2. 土・日や夜間の勤務が多いと聞いていたのではないと思った。
- 3. 土・日や夜間の勤務が多いと聞いていたのではないと思った。
- 4. どの仕事をするところか分からなかったため、大変不安だった。
- 5. 早く一般行政部門へ戻りたいと思った。



先般公民館職員の初任者に対するアンケートを実施した。突然の調査ではあったが、積極的な協力により、極めて高い回収結果を得た。(該当職員の有無にかかわらず全市町村の公民館に配布し、該当者から郵送してもらった方法をとった。回答を得たのは91市町村、199人)

調査対象は、昭和60年4月1日以降に公民館勤務を命ぜられた、常勤職員とした。また、公民館事業の企画・運営・実施にあたる全ての職員を対象とした集計は男女別に行なったが、女子少数のため分けなかった。

20代・30代の職員中に、教育

委員会事務局職員として、学校教育課・社会教育課から、配置換えになった者や、公民館に新採用となった者などが少数いたが、ほとんどは一般行政部門から来たもの。これらの職員のうち、比較的多かったのは福祉関係の部門からの者。多少なりとも、社会教育に結びつきのあるほうが即戦力になるという配慮でもあろうか。

あとは、税務課・総務課・建設課等々実に様々な部門からであり、およそ教育とは無縁なところからやってくることもわかった。

### 3. 公民館活動について

(1) あなたが、公民館活動を行ううえで、知りたいと思っていることは次のどれですか、知りたいこと全部に○印をつけてください。

図表 2

| 項目                          | 割合 (%) |          |    |    |    |    |    |    |    |    |  |
|-----------------------------|--------|----------|----|----|----|----|----|----|----|----|--|
|                             | 0      | 10       | 20 | 30 | 40 | 50 | 60 | 70 | 80 | 90 |  |
| 1. 「公民館とは何か」について            | 20代    | 20(40.6) |    |    |    |    |    |    |    |    |  |
|                             | 30代    | 23(29.5) |    |    |    |    |    |    |    |    |  |
|                             | 40代    | 5(25.0)  |    |    |    |    |    |    |    |    |  |
|                             | 50代    | 17(47.2) |    |    |    |    |    |    |    |    |  |
| 2. 施設の活用や管理について             | 20代    | 5(10.2)  |    |    |    |    |    |    |    |    |  |
|                             | 30代    | 11(14.1) |    |    |    |    |    |    |    |    |  |
|                             | 40代    | 11(30.6) |    |    |    |    |    |    |    |    |  |
|                             | 50代    | 5(22.2)  |    |    |    |    |    |    |    |    |  |
| 3. 窓口サービス(資料や学習案内など)について    | 20代    | 6(12.2)  |    |    |    |    |    |    |    |    |  |
|                             | 30代    | 12(15.4) |    |    |    |    |    |    |    |    |  |
|                             | 40代    | 4(11.1)  |    |    |    |    |    |    |    |    |  |
|                             | 50代    | 6(16.7)  |    |    |    |    |    |    |    |    |  |
| 4. 公民館事業の範囲について             | 20代    | 27(55.1) |    |    |    |    |    |    |    |    |  |
|                             | 30代    | 24(45.6) |    |    |    |    |    |    |    |    |  |
|                             | 40代    | 8(50.0)  |    |    |    |    |    |    |    |    |  |
|                             | 50代    | 23(59.9) |    |    |    |    |    |    |    |    |  |
| 5. 公民館事業(一般・学芸・講座などの企画)について | 20代    | 34(69.4) |    |    |    |    |    |    |    |    |  |
|                             | 30代    | 35(70.5) |    |    |    |    |    |    |    |    |  |
|                             | 40代    | 19(52.5) |    |    |    |    |    |    |    |    |  |
|                             | 50代    | 16(60.0) |    |    |    |    |    |    |    |    |  |
| 6. 公民館運営審議会のもちかたについて        | 20代    | 4(8.2)   |    |    |    |    |    |    |    |    |  |
|                             | 30代    | 8(10.3)  |    |    |    |    |    |    |    |    |  |
|                             | 40代    | 9(25.0)  |    |    |    |    |    |    |    |    |  |
|                             | 50代    | 12(32.3) |    |    |    |    |    |    |    |    |  |
| 7. 会議や話し合い、司会や進行のやりかたについて   | 20代    | 23(46.9) |    |    |    |    |    |    |    |    |  |
|                             | 30代    | 31(59.7) |    |    |    |    |    |    |    |    |  |
|                             | 40代    | 8(22.2)  |    |    |    |    |    |    |    |    |  |
|                             | 50代    | 7(19.5)  |    |    |    |    |    |    |    |    |  |
| 8. 図書室の運営や、図書館の整理について       | 20代    | 6(12.2)  |    |    |    |    |    |    |    |    |  |
|                             | 30代    | 10(12.8) |    |    |    |    |    |    |    |    |  |
|                             | 40代    | 1(2.6)   |    |    |    |    |    |    |    |    |  |
|                             | 50代    | 5(13.9)  |    |    |    |    |    |    |    |    |  |
| 9. 広報紙やPRの方法や技術について         | 20代    | 17(34.7) |    |    |    |    |    |    |    |    |  |
|                             | 30代    | 27(34.6) |    |    |    |    |    |    |    |    |  |
|                             | 40代    | 2(5.6)   |    |    |    |    |    |    |    |    |  |
|                             | 50代    | 2(25.0)  |    |    |    |    |    |    |    |    |  |
| 10. コミセン・地域おこしなどの考え方について    | 20代    | 23(46.9) |    |    |    |    |    |    |    |    |  |
|                             | 30代    | 41(52.6) |    |    |    |    |    |    |    |    |  |
|                             | 40代    | 17(47.2) |    |    |    |    |    |    |    |    |  |
|                             | 50代    | 22(61.1) |    |    |    |    |    |    |    |    |  |

図表1 公民館勤務を命ぜられて、最初に感じたことは、どんなことですか。

この問いで圧倒的に多かったのは、「4. どんな仕事をするとどこか分からないための不安」ついで「2. 住民と接する仕事なので、うまくやっていたら不安である」という不安である。

すでに記したとおり、一般行政部門の各分野にいた職員であるから、「公民館がどんな仕事をするとどこか分からない」という反

応が高いのも無理からぬことではあるが、認識の薄い点は考えてみる必要があるのではあるまいか。

教育と無縁なところにいた職員だから、「住民との接し方」に不安を持っているのは当然のことといえよう。今後の事業実施の中で大いに研修と実践を積み重ねなければならないところである。

「3. 土・日・夜間勤務が多くて辛い」と思っている職員も多い。とりわけ、40代・30代にこの反応が高くなっている。こ

これは、年齢的に「子育て」や「家族」の問題等、最も重要な時期であり、当然の気持の現われと思われる。だから、次の「5. 早く一般行政部門へ戻りたい」という気持になるのもうなづける。

「1. 公民館の仕事に興味をもっていただけ、うれしかった」という反応が予想外に大きかった。これは、教育委員会からの異動による者か、民生福祉の関係が公民館との結びつきが深く、関心を持っている人たちの反応であろうか。

### 4. の(2) 公民館に勤務しての悩み

表1 20代(記入者22名)

1. 一般行政部門との関係
  - 公民館が一般行政を批判するような事業を行ってもいいものか。
  - 情報の交流が不足している。
  - 一般行政部門と比べて公民館は、あまり重要視されていない。
2. 勤務時間に関して
  - 土・日・夜間等の勤務が多く、自分の時間が持てない。生活が不規則。嫁のきてがたい。
  - 時間に追われ満足いく仕事ができない。
  - 公民館の事務が多くて、地域の中に入っていけない。
3. 職場の人間関係
  - 教育長、館長などの考えがわからない。どこまでやっていいのか不安。
  - 下の者の意見が届かない。(課内のコミュニケーションがよくいっていない。)
  - 職員間の協力体制がうまくない。
  - 職員の体制不備。少ない人数で多くの仕事をしなければならぬ。
4. 事業に関して
  - 公民館事業と社会教育事業との区別がつかない。
  - 一度事業をおこすと簡単にやめられないので困る。
  - 公民館の窓口の範囲が広すぎる。雑務が多く職員が少なく、一つのことに集中できない。
  - 各種の学級・講座の運営に専門的な能力が乏しくて困っている。
  - 人まえて話した経験がない私が、住民に接することになった。接し方が分からなくて困っている。
  - 各種団体(子ども会、青年団、婦人会…)との連携のしかたが分からない。
  - 事業をやっても人が集まらない。
  - 事業終了後の充実感が少ない(結果が形になって現れない。)
  - 住民にどこまでサービスすべきか。住民の便利屋でいいのか。
  - 今のような公民館活動に意味があるのか。こんなことをしていいのか不安になる。

20代職員は、紙面の関係で、20代職員のみを掲載することにした。30代の職員はほとんど同様の悩みを持っていた。40代から50代にかけては、立場の相違などから、若干違った悩みを持ってはいるが、これらの多くは、講座解説の中で、自己研修することによって、解消するものである。

20代職員は、紙面の関係で、20代職員のみを掲載することにした。30代の職員はほとんど同様の悩みを持っていた。40代から50代にかけては、立場の相違などから、若干違った悩みを持ってはいるが、これらの多くは、講座解説の中で、自己研修することによって、解消するものである。

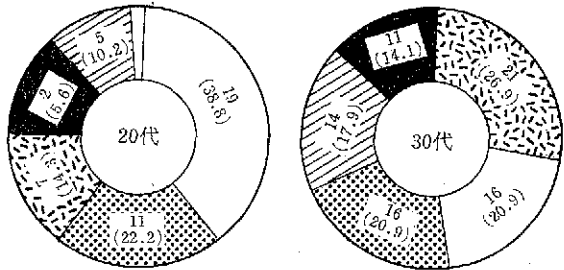
# 公民館職員

|             |    |       |    |       |    |
|-------------|----|-------|----|-------|----|
| 調査用紙<br>回収数 | 年齢 | 18~29 |    | 30~39 |    |
|             | 性別 | 男     | 44 | 49    | 66 |
|             |    | 女     | 5  |       | 12 |

1. 公民館の仕事に興味を持っていたのでうれしかった。

2. 住民と接する仕事なので、うまくやっていけないから心配だった。

図表1



図表2 あなたが、公民館活動を行ううえで、知りたことと思っっていることは。

「1 公民館とは何か」と問われると、ベテランの職員でも「ベテノグ」と一瞬とまどう。それほどに受けとめ方に個人差があり、多様な理解をしているのが実態であるから、新任者には、特に難解であろう。

また、この問を広範にとらえると、以下の問のすべてが該当することになる。よって、狭義に解釈して、解説をする必要がある。

問4・5の反応が高い。こ

で指摘する必要のあるのは、社会教育課と公民館との関係の明確化であり、事業の分担に関してであろう。これは、個々の市町村の実情により、大いに違っている。両者が未分化であったり、分化されていても、相互の役割分担にご都合主義的なところがあるなど、複雑多岐になっている。加えて、住民福祉の内容や一般行政サービスの窓口としたり、非行政サービスの窓口としたり、公民館の事業として受けとめるなど、実情は多様である。これらのことから、真に公民館が何をしなければならぬのかについて、初任者講座の中で重

表1 あなたが、公民館に勤務している上で、今、悩んでいることは何ですか。

表1については、紙面の関係で、20代職員のみを掲載することにした。30代の職員はほとんど同様の悩みを持っていた。40代から50代にかけては、立場の相違などから、若干違った悩みを持ってはいるが、これらの多くは、講座解説の中で、自己研修することによって、解消するものである。

点的に力を入れる必要がありそうである。そして、公民館に関するイメージの確立を急ぐ必要のある部分でもある。

「問10のコミュニケーションづくりとか地域おこしと公民館」への反応も高い。地域に根ざした公民館の活動が叫ばれている今日の課題である。生涯教育態勢下の公民館のあり方とともに、大いに力を入れる必要のある部分である。

# 実践記録シリーズ

(15)

## 苦心の青年堀り起こし策

### 24時間ソフトボール大会の試み

#### 新潟市西地区公民館

新潟市の西地区公民館で24時間ソフトボール大会を実施したという情報を得た。驚きながらも、何かねらいがあるのだろうと、さっそく、問い合わせた。すると、案の定、「最近、青年層が公民館から離れる傾向にあるので、なんとかしてUターンさせたい。それにはスポーツを軸にして、思いきった発想の転換をはかるために、工夫をこらしたものだ」という答えが返ってきた。

多少奇をてらった感がなくもないが、その苦心と努力のほどを紹介したいと思っ、レポートしてもらった。

西地区公民館は、新潟市の西部に、勤めている青年、学生を問わぬ地域をエリアに、内野町にある。この公民館は勤務して三年、毎年青年対象の事業を担当してきた。この三年間で、公民館事業に参加する青年の傾向が固定化と利用者の減少傾向が目立ってきた。そこで、地域青年の掘り起こしと離れ防止について検討してきた。その結果、今年是新機軸のイベントを加えて活性化を図ることとした。

イベントの案には「魚田山の夜間登山」や「座禅大会」などいろいろあったが、誰でも気軽に参加できるスポーツで、男女が参加できるものとしてソフトボールに絞った。

新機軸の試みは、球技(内野小)を各方面に配布するなど、事前の広報は十分にやった。だが、参加申し込みは30人足らず、これでは24時間は持ちそうもないと、不安が出て来た。

大会二日前には、球場(内野小)に、夜間照明をすることや、応援等の喚び、車の排気音や、ゴミの始末に至るまで、事情を説明して了解を得る。また駐車場の確保も、夜間の車上狙いに対するパトロールを依頼するなど、細心の配慮をした。

さて、いよいよ当日となった。ソフトを張り、ラインを引くなど、四つづくりにつとめる。はじめ、実行委員のメンバーを含めて十人程度で準備をしていたが、ひとふたりとフリーの参加者が集って来て、一箱の準備の手伝いをしてくれるなど、協力態勢は予想以上に盛況だった。



この計画案を、公民館利用の数人の青年持ちかけたところ、全面的な支持を得ることになった。そこで、さっそく、地元青年の有志五人からなる実行委員会を組織して、実施することになった。まず、市報(ハガタ)や夕刊(アサヒ)のほかに、ラジオを通じて大会開催をPRするから、チラシ以上は届いた。

インテの監督を引き受ける方式だったが、このいずれもが、実に田舎に運賃された。自主的な事業ほど、自からの英知を出しあう青年を、そして協力的に仕事をすすめることのみ、現代の青年像を垣間見る風がした。

翌日午後二時ころになると、にわかアナウンサー、煙が出現して「あと5分、45分」と目標達成に力を入れるようになり、監督やコーチの熱が入ってきた。かくして、手作りソフトボール大会は、中間の雨降りというアクシデントにもかかわらず、ついに最後までやりとおした。

スポーツという、やもするも、勝敗にこだわり、エキサイトしがるものであるが、こうした試みは、一連選手指向のスポーツと違って、楽しさがあることを認識させられた。

参加者162人うち女子50人。2回以上参加した人を加えると延人数25人。年齢は1歳から47歳。B1インテス戦いつけて、両軍の得点はなんと17対17点の同点だった。

最後に、この「24時間ソフトボール」は、その基本的なねらいとした、青年層への公民館の存在感をイメージづけると役立ったこと。そして、少しづつではあるが、公民館を利用する青年グループが増えようとするのを付け加えておく。

(新潟市西地区公民館 本誌連載(15))

## プロフィール

十日町市下条地区公民館主事

水落 満長氏(32歳)

雪どきものとコンシカリの里、十日町市には中央公民館と七つの地区館があり、それぞれに専任の職員が配置されている。

彼の担当は「学級や講座の開設」「図書活動」「分館事業」「予算・経理」などで、学級講座では、家庭教育学級や子育て実践セミナーで若い父母を相手にし、少年少女読書活動ではテレビコに大注ぎです。分館事業では、老人クラブや婦人会の良き相談相手になっていきます。とりわけ、今年重点事業「下条子」一人50冊読書運動の成果は、めざましく、昨年、年間千五百冊だった行出し冊数が今年はずっと七千にも達しています。

マンチェイ君に「次号のプロフィールを紹介するよ」と言ったら「あはは、ヨシヨシの調子がよくて、テンメスねー彼はそういう男なので、不規則な夜の公民館勤務を支えているのは、若旦那の美人の奥さんと温かい家庭があるからさ。



(下条地区公民館 館長補佐 藤谷彰)

### 国分寺(東京都下)の

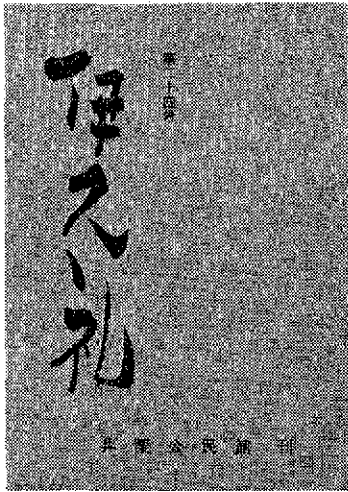
### 公民館報から

「自分の住んでいる街って、案がきたら、もっとすばらしいで外知らないものです。でも、自分すね」という呼びかけで、6月から、住む街を多知ることができた。「国分寺」がスタート、その結果を誰かに伝えること、したことが大事です。



### 三条市井栗公民館から

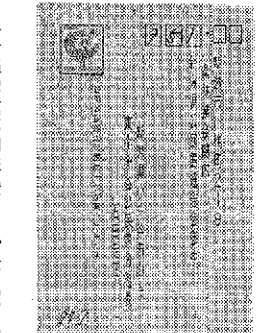
三条市井栗公民館から文集「伊久礼」地区民のサロンとして、白久礼」第二十四号が送られてきた。田投稿の文集で年一回刊行の由



## 情報広場

真の教養を学ぶ  
石田 定正

先般の奥公民館大会に参加した。政治と公民館活動に関する

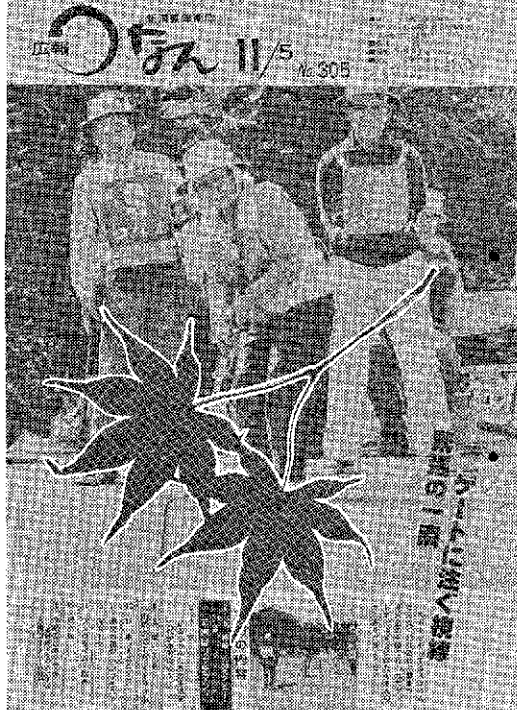


した。基調講演で、特に印象に残ったことを記します。「都会の知識人に言われる場所での生活の困難なことを話し、言が降るとは、話のいいではないで、大衆にとって、政治も同じような事があると思いますが、今後は政治面も配慮されるよう希望します。」

自由投稿だけあって、随想・作文・詩歌の他に、絵画や写真も含まれていました。編集から送付まで、5月号までです。

奥公民館大会の印象記をプリントしていただきました。編集の都合で先月号に掲載されなかったことをお詫言します。(編集長)

公民館長樋口圭介氏から、次のようなメッセージが送られてきました。「伊久礼」は井栗の昔の地名。なお、伊久礼神社の万葉の古歌の碑には、妹が家に伊久里の藤の花を今こむ春をつねかくし見んとある由。ありがたう思います。(一七六四年建)



津南町広報11月5日号から  
毎月県内の多くの市町村から、公民館報や広報が贈られてきます。その中の一つに「広報」があります。この「広報」なんの11月5日号開いたところ、きれいに紅葉した「もみじ」の葉がバラリと落ちました。はげしく、地元で梱包作業をしている時、聞いたのだからと感ってました。たまたま一部(1つ)も一冊送ってくださった方(1つ)の方にもやはり、入っていました。津南町の秋の香りが、広報指図の方のやさしい心遣いで、こころを届いた感じでした。多分、故郷を離れていく人たちのこころへも、届けられていくように思います。当編集子以上にぬくもりを感ずることを願います。

### 入広瀬村報「新生」11月10日号から



目でみる行政広報(村内視察)を実施

ぬくもりをありがとう

二市北浦公演

公民館職員研修会開催

二市北浦公民館連 二市北浦公民館連  
 合会では、11月11・12日の二日間、12日の二日間、職員研修会を開催した。地元新潟市の月岡温泉を会場に、普内町村の、館長・主事等三十名の職員が参加した。

初日の研修テーマは「意欲的に発展させよう公民館活動」と題し、いわゆる公民館活動の活性化について。第二日は、「地域の教育力を高めるため、公民館に期待すること」と題し、地元教育長から講義を受けるものであった。

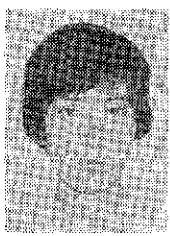
上越地区公演  
 松之山町で開催

本会の伊藤女子事務局長が、12月31日限りで都庁より依願退職することになりました。

ごあいさつ

伊藤 京子

月日のたつのは早いもので、私があり、私としては忘れがたが、公進に勤務して、二年半が過ぎました。思い起せば、公進に就任しては、まさに激動の時代でした。会長、事務局長、それぞれ三人の方にお世話になりました。様々な人との出会いがあり、別



最後は、皆様のご多幸と益々の発展をお祈り申し上げます。

11月20・21日、松之山温泉において上越地区公演主催の公民館職員研修会が開催された。

講演は「公民館の抱える諸問題」と題して、大潟町公民館長、辺之夫氏から、また、実践発表は安塚町公民館の「地域活性化活動の成果」が発表された。

分科会は、青・壮年・就労婦人高齢者を対象とした事業の三分科会を設定し、それぞれ熱心な研修が繰り展開された。

青少年指導者グループ ワークセミナー  
 青少年の体験学習による相互啓蒙を重視し、グループワークトレーニングの理論と実践についての研修を行います。

事業紹介Ⅳ

県社会教育課関係事業

県立青少年研修センター 期日 1月28日(水)から30日(金)まで (泊3日)  
 会場 県立青少年研修センター  
 対象 市町村青少年教育担当者、学校教職員、専修学校職員、福祉施設・企業等の研修担当者 各50人  
 申し込み・問い合わせは次 申込み  
 電話 0356-13113

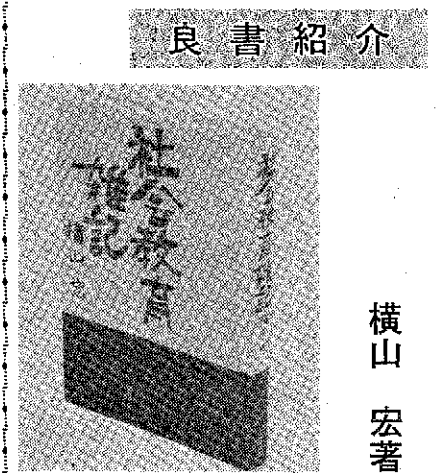
期日 2月22日(日)から24日(火)  
 会場 県立青少年研修センター  
 対象 高等学校生徒 130人  
 申し込み締切 3月14日(土)

期日 2月7日(土)・8日(日)  
 会場 県少年自然の家  
 対象 小・中学生とその親100人  
 料金 二千円(食費含む)

期日 1月24日(土)25日(月)  
 第一回 1月31日(土)2月1日(日)  
 会場 県少年自然の家  
 対象 小・中学生とその親100人  
 料金 二千円(食費含む)

社会教育雑誌

横山 宏著



著者の横山宏氏は、中国生まれの中国育ち。昭和22年文部省社会教育局に入り、33年国立教育研究所に転ずるも社会教育にかかわり、昭和60年2月定年退職。その後、早稲田大学で社会教育を講ずることになった。また、戦後日本の社会教育の育ての親の一人であり、今なお、共に歩んでいられる。本書は標題のとおり、自伝あり、社会教育の要諦あり、中国への懐古あり、人物往来ありとさまざま内容が盛り込まれている。それが二冊に分かれている。社会教育と共に生きてきた氏の人間観である。

※ ※ ※

同時代社刊 B6版  
 一三〇〇頁 一、八〇〇円

童・生徒の情操や社会性を豊かにするため、次の事業を開催します。

申し込みは、次のようにしてください。

申し込み受け付け  
 事業開催一か月前から、電話で受け付けます。定員になり次第打ち切ります。

北浦原郡中条町乙  
 電話 0356-13113

わんぱく集れ (第一回、二回)  
 期日  
 第一回 1月24日(土)25日(月)  
 第二回 1月31日(土)2月1日(日)  
 会場 県少年自然の家  
 対象 小学校5・6年生 120人  
 料金 二千円(食費含む)

親子の集い 雪まつり  
 期日 2月7日(土)・8日(日)  
 会場 県少年自然の家  
 対象 小・中学生とその親100人  
 料金 二千円(バス代・食費含む)

あとかぎ  
 活性化・活性化で一年が暮れようとしています。師走を迎えて多忙のことと思います。  
 来年こそは、希望に満ちた、よい年でありますように。(上村)